

## 算数科における基礎・基本の定着を図る少人数指導の工夫改善

はじめに

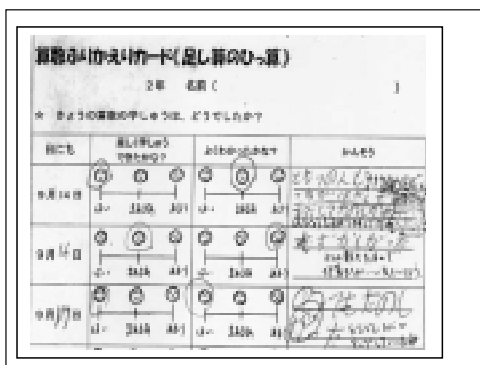
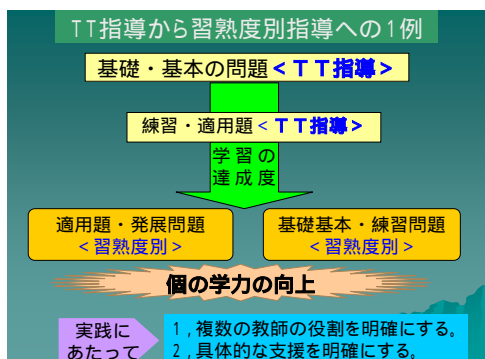
近年、子どもの学力の向上を図るためTT指導や少人数指導が導入され、授業の工夫改善が図られている。そこで、少人数指導やTT指導の形態に着目し、その指導形態を変化させ、子どもたちの理解の程度や学習の状況、教師の少人数指導に対する意識の変容を考察することによって、効果的な少人数指導やTT指導について研究を進めた。

### 1. 形態を変化させた少人数指導の実践

実践は泊小学校2年生26名を対象にした。2年生は単学級であり、通常の算数学習はTT指導で進められている。この指導方法は、学習に遅れがちな児童や配慮を要する児童を指導しやすいという利点があるが、理解の速い子どもたちの学習を深めるためには、さらに授業の工夫改善をする必要がある。そこで、子どもたちの習熟度に応じた指導を進めること

によって、個に応じた学力を高めることができるのではないかと考えて実践した。

一人一人の子どもの学習を保障していくためには、その子どもに応じた課題を設定することが大切である。学習の始めは一斉学習で取組み、子どもの学習達成状況に応じて、習熟度別指導に移行して、子どもたち一人一人に応じて課題を設定し学習を深めようと考えた。これは左図のように1単位時間の中で習熟度別少人数指導に取り組む1例である。

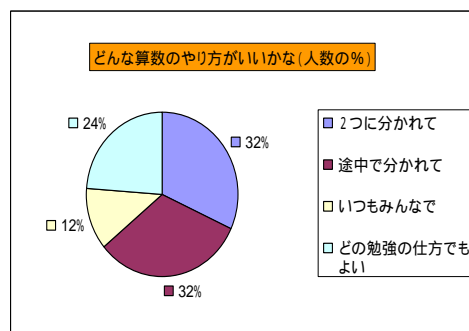


### < 評価について >

評価については毎時間ごと自己評価を記入させる振り返りカード(左図)を作成した。このカードによって、子どもたちの学習に対する気持ちや様子を把握することができ、次の学習に生かすことができると考える。また、学習の過程をノートにしっかり記入させたり、時間ごとの簡単な評価プリントをさせたりして、学習の足跡を残し、評価や次の支援に役立てることも大切なことである。

### < 授業後の児童の感想 >

授業実践の後、児童に少人数指導のやり方についてアンケートをして、どのようなやり方をした方がわかりやすく学習しやすいか考察した。このアンケートを集計すると、右のグラフのように、少人数に分かれて学習した方が分かりやすい、集中しやすいと答えている児童が約2/3となっており、児童の実態



や学習内容に応じた学習方法を工夫改善していくことが大切であると考える。

## 2, 指導形態の見直し

(図1)

今回の実践では、10時間の単元の中で、TT指導、等質少人数指導、習熟度別指導と学習を進めた(図1)。これは、最初にTT指導で子どもたちの学習の様子や能力を把握し、次の指導につなぎたいと考えたからである。

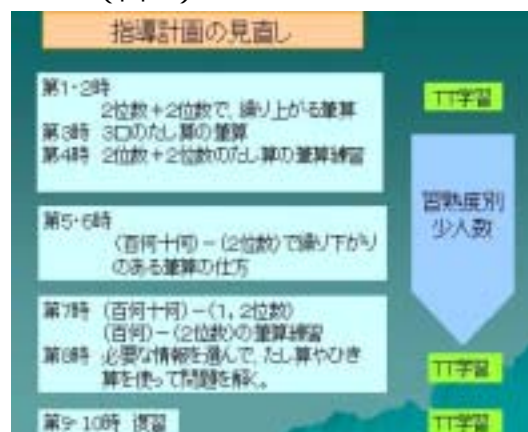
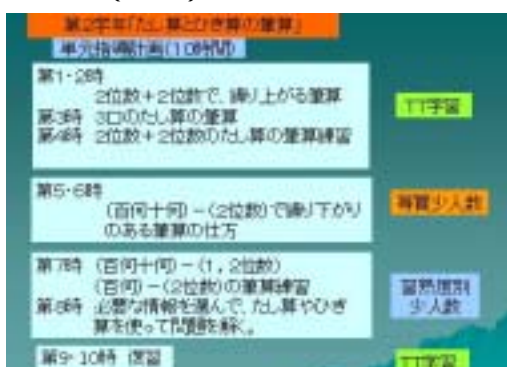
子どもたちの実態が把握できていれば、始めから等質少人数や習熟度別少人数指導など、効果的な指導形態に決定して授業実践できると考える。

今回の授業実践を通して、学級の子どもたちに多様な考えを把握させたいような場合には、TT指導の方が効果的であり、子どもたちの学力差が大きいような場合には、個々の子どもたちのレベルにあわせた習熟度別少人数指導が効果的であるといえる。

このことから、この単元の指導計画では、次のように指導形態を変更することで、より効果的な指導を行うことができると考える。

(図2)

具体的には図2のように、導入でTT指導を行い、子どもたちの実態を把握しながら、本単元の第3時~第7時のように計算力を高めるような場合には、習熟度別指導で行うことが効果的ではないかと考える。また、第8時のように多くの友達の考えを参考にしたり、友達との関わりを大切にしたりする場合には、指導形態を変更し、TT指導で授業実践したほうがよかったのではないかと考える。また、みんなで意見交換したりする場合には、TT指導や等質少人数指導で学習した方がよいのではないかと考える。



## 3, 研究のまとめ

### 効果的な少人数指導・TT指導

多くの友達の考えを参考にしたり、友達との関わりを大切にしたり、みんなで意見交換したりする場合には、TT指導や等質少人数指導で学習し、子どもたち一人一人の計算力を高めるような場合には習熟度別指導で行えば、子どもたち一人一人の学習意欲を高め、効果的に学習を進めることができる。

### 学習指導の工夫

子どもたちの解決の様相をいくつかのパターンとして想定し、それらに対する支援を事前に考えておけば、子どもたちのつまづきを的確に把握し有効な支援をすることができる。

## 4, 課題

子ども自身が習熟度別指導をどのように感じているかを把握したり、学習につまづきがちだった子どもや遅れがちだった子どもの反応や学習の変化に注目したりして、指導と評価の改善を図り、保護者に対しても折に触れて、少人数指導の成果や結果についてもできるだけ具体的に伝えるようにしていきたい。

また、習熟度別の少人数に分けたときに子どもたちに劣等感を起こさせることなく、個に応じた指導を工夫し、一人一人の子どもをの学力を高めていきたい。